

社会貢献活動

「育てること(育成)」「続けること(継続)」をコンセプトに社会貢献活動に取り組み、豊かで安心感あふれる生活・社会づくりに努めます。

社会貢献活動の取組方針

当社は、「社会貢献活動の取組方針」を制定し、社会の一員として、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

基本的な考え方

第一生命は、社会性・公共性の強い生命保険事業を通じて、豊かで安心感あふれる生活・社会づくりに努めており、自らが地域社会の一員であることを意識し、ともに「良き企業市民」として発展することを目指しています。

取組内容

- 1 社会貢献活動の分野は「健康・福祉」、「生活環境」、「教育・調査」、「地域社会貢献」、「芸術・文化」、「スポーツ」の6つとします。
- 2 社会貢献活動の基本コンセプトは「育てること(育成)」、「続けること(継続)」とします。
- 3 時代の要請を反映しながら、社会貢献活動の「振り返り・見直し」を定期的に行い、さらに付加価値の高い活動を目指します。

健康・福祉

生命保険会社の使命として、人々の健康や福祉の向上に貢献すべく取り組んでいます。

■ 保健文化賞

1950年、戦後の混乱期において、保健衛生の向上に取り組む人々に感謝を捧げる賞として創設しました。厚生労働省他の後援を得て毎年実施された表彰は、2010年で62回目を迎えました。本賞は毎年秋に贈呈式を行い、受賞者は翌日皇居に参内し、天皇・皇后両陛下に拝謁を賜っています。時代の変化を踏まえ、現在では、高齢者・障がい者福祉、国際保健等、幅広い課題に対する取り組みを顕彰しています。



第61回 保健文化賞贈呈式

第61回 保健文化賞贈呈式

VOICE

第61回保健文化賞受賞者の声))

医師としての信念のもと、今後も精進していきます

第61回保健文化賞を授与されましたことは、大変光栄なことであり、心から感謝しています。

私は、医師とは患者のところに外向くことが本来のあるべき姿であるという信念のもと、日本国内外での活動を続けてきました。特に、国外においては1980年からアフガン難民キャンプにおいて医療活動に従事、2002年にはNGOを設立し、この8年間で約23万人の患者を診察するとともに、教育の機会のない村の子供たちに寺子屋式の学校を9つ設立するなど、アフガニスタン復興を医療と教育の両面で支援しています。今回の受賞を励みに、今後、ますます精進していきます。



レシャード医院 院長
Reshad Khaled様

Web 保健文化賞

■ 財団法人心臓血管研究所

循環器疾患の研究・予防・診断および治療を目的として1959年に設立しました。以来、循環器疾患に関する多くの研究論文を発表し、治療成績の向上に寄与しています。特に近年は、併設する付属病院の豊富な臨床例をデータベース化し、循環器医療が解決すべき課題の明確化と、新たな医療の開発を推進しています。また、高度で先進的な医療を提供すべく、付属病院には循環器疾患を専門とするスタッフを配置しています。

■ 財団法人姿勢研究所

姿勢と健康の持つ意義と重要性を広く人々に啓発するなどの公益活動を通じ、国民の健康と福祉に貢献することを目的に1966年に設立しました。機関誌を年2回発行しています。



機関誌「POSTURE」

■ がん検診受診啓発活動

当社は、がん検診受診率50%を目指す国家プロジェクト「がん検診企業アクション」の推進パートナー企業として、お客さま向け啓発チラシ「生涯設計ジャーナル」の作成や小冊子「がん検診のススメ」の提供を行い、お客さまへのがん検診受診に向けた啓発活動を実施しています。



お客さま向け啓発チラシ
「生涯設計ジャーナル」



小冊子
「がん検診のススメ」

■ ウェルライフセミナー

第一生命経済研究所ウェルライフ開発室では、医師等の社外講師や専属の保健師による健康・医療・介護に関するセミナーを開催しています。2009年度は39回開催しました。



■ 社会貢献ノベルティ

障がい者の職場の拡大を推進している第一生命の特例子会社である第一生命チャレンジの職員の福田英子さんが描いた作品を使用したノベルティをお客さまにお配りしています。このノベルティの売上げの一部は日本介助犬協会に寄付し、障がい者福祉にあてられています。



生活環境

潤いのある生活環境を目指し、人々が暮らしやすい社会づくりのための調査・研究に取り組んでいます。

■ 財団法人第一住宅建設協会

居住環境の整備や住生活の向上に関する調査・研究と啓発を目的に1955年に設立しました。機関誌を年4回発行しています。



機関誌「city&life」

■ 財団法人地域社会研究所

「近代的地域社会」という概念の普及および調査・研究を行い、社会の発展に寄与することを目的に1963年に設立しました。機関誌を年2回発行しています。



機関誌「The Community」

教育・調査

生命保険の普及と発展を願い、教育・調査活動に取り組んでいます。

■ 第一生命経済研究所

第一生命経済研究所は経済から生活まで幅広くカバーするシンクタンクです。調査・研究成果の一部は、「第一生命経済研レポート」「ライフデザインレポート」のほか、ニュースリリースやホームページ等を通じて公表しています。また、保険・年金分野の調査・研究は第一生命の経営・営業活動に役立つ情報として提供しています。

2009年度は、経済分野から「2009・2010年度日本経済見通し」「日本経済の10年予測」「2009～2011年度日本経済見通し」を、生活分野から「企業による子育てにかかわる地域貢献活動」「地域の公園環境と子どもの外遊び」「景気見通しと結婚・出産意欲 この1年間の変化」等をリリースしました。さらに、財務総合政策研究所の研究会や内閣府主催のフォーラムメンバーやパネリストを派遣するなど、各行政機関とも連携し幅広く社会に向けた提言活動を行っています。

また、企業・団体向けに、定年退職後の生活設計をアドバイスする「洋洋人生のススメ」を、2009年度は92回開催しました。



「洋洋人生のススメ」受講風景

Web 第一生命経済研究所

■ 産学連携による寄付講義・共同研究

2007年より、一橋大学大学院商学研究科MBAコースに寄付講義を提供するとともに産学連携の共同研究を継続しています。2010年は「金融保険数理」を開講し、当社グループ役員を講師として派遣しています。

また2008年より、明治大学法科大学院に「保険法」に関する公開講座を（損害保険ジャパンと共同）、2009年からは立教大学理学部数学科と同大学院理学研究科数学専攻に「数学学業奨励奨学金」を提供しています。



一橋大学との共同研究内容をまとめた「保険法解説」

■ 少子化問題等への取り組み

当社役員が日本経済団体連合会の社会保障委員会および少子化対策委員会で委員長を務め、税制・財政・社会保障制度の一体的改革や少子化対策等の検討に参画し、提言を行っています。

■ 消費者問題研究会

専門分野の有識者が集い、企業の消費者対応のあり方やお客さま本位の経営のあり方等について意見交換を行うことを目的に、1985年から継続して「消費者問題研究会」を開催しています。意見交換の内容は小冊子にまとめて発行し、各地の消費生活センター、消費者団体等に提供しています。2009年3月に第10次研究会のまとめとして冊子「きずこう消費者主役の新時代」を発行し、多くの反響をいただきました。

■ 「ライフサイクルゲーム」による金融教育支援

財団法人消費者教育支援センターの「第4回消費者教育教材資料表彰」の「実験実習部門」で優秀賞を受賞した「ライフサイクルゲーム」を活用し、日本消費者教育学会等と連携した金融教育支援を行っています。このゲームは、生命保険をはじめとする金融商品や契約に関する知識が学べるように工夫されたゲーム教材として各方面からご好評をいただいています。



日本消費者教育学会による学生セミナー

■ 子どもたちへの経済教育 —「ファイナンスパーク」への協賛

京都市教育委員会と経済教育団体ジュニア・アチーブメントの共催事業である中学生向けプログラム「ファイナンスパーク」に協賛しています。これは、仮定の街で社会人として1年間の生活設計や収支計算を体験するプログラムです。第一生命ブースでは、次世代を担う子どもたちに生命保険の仕組みや役割を分かりやすく伝えています。



ファイナンスパーク

■ 財団法人矢野恒太記念会

当社の創立者である矢野恒太の事績を顕彰することを目的に、創立50周年事業の一環として、1953年に設立しました。教育分野や一般教養書として広く愛読されている、1927年初版の「日本国勢図会」発行等を通じた統計の普及・啓発事業や、奨学金事業、農業振興者の表彰等各種公益事業を行っています。



日本国勢図会

■ 地域社会貢献

全国で地域に根ざした社会貢献活動に取り組んでいます。

■ 「黄色いワッペン」贈呈事業

1965年、交通事故撲滅を推進する取り組みとして、全国の新入学児童に交通事故傷害保険付きの「黄色いワッペン」を贈る事業が開始されました。当社は2003年より参画し、現在はみずほフィナンシャルグループ等4社で実施しています。

2010年の約115万枚を加え、これまでに贈られたワッペンは約5,661万枚に達します。



第46回「黄色いワッペン」贈呈式終了後の交通安全教室

■ 全国職員によるボランティア活動

地域社会の一員として、全国各地の職員がグループで清掃活動、チャリティバザー、募金活動等、自発的な地域社会貢献活動に取り組んでいます。

職員による自発的な地域社会貢献活動を支援・推進するため、当社では1992年より「マッチングギフト制度」を導入しています。この制度は、ボランティア活動で集めた募金等の金額に会社が一定額を上乗せし、ボランティア団体や施設に寄付するとともに活動経費を一部補助するものです。

また、顕著な社会貢献活動を行った職員グループに対し、「社会貢献活動表彰」を実施しています。



チャリティバザー(長野支社)

2009年度のボランティア活動

活動の種類	件数 (活動グループ数)
チャリティバザー	17
チャリティウォーク	25
清掃等の環境保全活動	23
街頭等での募金活動	18
収集活動(使用済み切手124kg、 使用済みカード約5万枚、エコキャップ830万個)	40
その他 (高齢者福祉施設の清掃や生演奏のプレゼント等)	15
合計	138

■ 芸術・文化

芸術・文化の発展を願い、良質な美術・音楽の提供および若い芸術家の育成に取り組んでいます。

■ VOCA展・第一生命ギャラリー

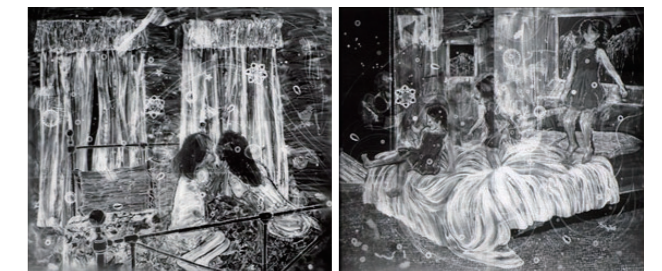
平面美術の領域で将来性のある若手作家を育成し、美術界の活性化の一翼を担うことを目的とした「VOCA(ヴォーカ)展」(The Vision of Contemporary Art-現代美術の展望)を第1回(1994年)より支援しています。第17回を迎えたVOCA展2010では、全国各地から若手作家35名による力作が展覧され、優秀作品には賞が贈られました。当社は、毎年展覧会の協賛に加え、VOCA賞・VOCA奨励賞受賞作品を所蔵し、日比谷本社1階ロビー

や、「第一生命南ギャラリー」(日比谷本社)で定期的に作品を公開しています。さらに、同ギャラリーにて受賞作家の個展を開催し、受賞後の制作活動の発表の場を提供することで継続した支援を行っています。

「第一生命北ギャラリー」(日比谷本社)では、現代洋画界を代表する故脇田和画伯の作品を常設しています。南北いずれのギャラリーも入場無料で、一般の方々に気軽に美術鑑賞をお楽しみいただいています。



第一生命南ギャラリー(日比谷本社)



VOCA賞受賞作品「内緒話」「ベッド」三宅紗織

VOICE

VOCA展2003 VOCA奨励賞受賞者の声

受賞者への手厚いサポートで活動の範囲が広がりました

いまやVOCA展は若手美術家にとって、憧れの舞台であり、受賞者となることはたいへん名誉なことです。また受賞者への手厚いサポートはほかにはない特徴です。私自身、第一生命ギャラリーで計3回個展を開催させていただきましたが、それはとても貴重な経験となりましたし、また別の賞を受賞するという幸運にもつながりました。



大谷 有花様

第一生命ギャラリーでの個展

Web 第一生命ギャラリー

スポーツ

次世代を担うスポーツプレーヤーの育成を支援しています。

■ 全国小学生テニス選手権大会

2010年で第28回を迎える本大会に、第1回(1983年)より特別協賛するとともに、当社所有のクレイコート(東京・仙川)を大会会場として提供しています。クレイコートがジュニアの試合で使用されることは珍しく、世界に羽ばたく選手を育てる上で極めて有効との評価をいただいています。本大会からは、杉山愛さん、錦織圭さん、2010年にウィンブルドン・ジュニア選手権で準優勝した石津幸恵さん等、国際的に活躍する選手を多数輩出しています。



第27回男子優勝
山崎 純平選手

■ 女子陸上競技部

1990年に女子陸上競技部を創設し、選手の育成を行っています。これまでに、2002年の全日本実業団対抗女子駅伝での優勝をはじめ、数多くの大会で好成績を収めてきました。また、2009年8月には尾崎好美選手が世界陸上競技選手権大会の女子マラソンで銀メダルを獲得するなど、日本女子長距離界のレベルアップに貢献しています。

VOICE

女子陸上競技部メンバーの声)))

陸上競技界の発展に努めます

監督 山下 佐知子

創部20周年目を迎えました。選手の育成を通じて、日本の陸上競技界の発展にも貢献できればと考えています。



選手 尾崎 好美

目標は全日本実業団対抗女子駅伝の優勝と、マラソンでのオリンピック出場です。応援してくださる皆さんの期待に応えられるよう頑張ります。



国際的な社会貢献活動

■ 財団法人 国際保険振興会(略称FALIA)

アジアを中心とした諸外国の保険事業の発展を目的に、国内および海外で保険事業関係者を招いて研修・セミナーを開催しています。国内の研修参加者は2010年3月末で累計27カ国3,165名、海外でのセミナー参加者も累計で5,000名以上となっています。スター・ユニオン・第一ライフ(P17)社長のサハイ氏をはじめ、多くのFALIA卒業生がそれぞれの国の生命保険事業の発展に貢献しています。

サラリーマン川柳コンクール

“サラ川(サラセン)”の愛称で親しまれている「サラリーマン川柳コンクール」を毎年実施しています。1987年からスタートし、2009年で23回目を迎えました。これまでの応募数は約84万句にのぼります。

毎年、全国のサラリーマン・OL・主婦等さまざまな方から、職場やご家庭等の日常生活の中で日ごろ感じている“喜怒哀楽”を、5・7・5の川柳にしてご応募いただいています。全国からご応募いただいた作品から当社で傑作100選を

選出し、お客さまに投票をさせていただいてベスト10を発表します。

入選作は例年マスコミでも取り上げられ、世相を映すユーモラスな「鏡」として話題となっています。

第23回第一位
仕分け人 妻に比べりゃ まだ甘い
北の揺人

